

福岡県立 玄 界 高等学校 平成 21 年度 学校関係者評価書

福岡県立 玄 界 高等学校長 殿

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

学校運営計画 (4月)				評価 (総合)	
学校教育目標	新時代における国家・社会および国際社会の有為な形成者として、自らの在り方生き方を自覚し、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましく生き方のできる人間の育成に努める。			B	
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標			
	「マナーアップ・学力向上と第一進路希望の実現」				
今年度は学力向上のため、生徒の実態に応じた授業改善や校内研修の充実、キャリア教育の視点を取り入れた年間指導計画の作成・実践、授業規律の更なる確立を目指していくとともに、学力の基礎基本を定着させるべき、各授業の改善・充実を図る。また、部活動のさらなる活性化のため、入部率の向上と保護者との連携を図り、部活動生としての意識を高める。さらには、地域との連携をこれまで以上に推進し、本校への理解を深めてもらうとともに、連携をさらに強化していく。	学習環境の整備を徹底する。	新学習指導要領による教育課程の検討と、清掃を徹底し教室環境の整備を図る。			
	教科指導力及び生徒指導力の向上に努める。	指導力向上のための校内研修の充実と、授業評価を生かした授業改善、キャリア教育に基づいた授業実践に努める。			
	共通理解に基づく生徒指導を徹底する。	学年と分掌の連携を強化し、教師間の共通理解と意識の統一を図りながら、「十則」を日頃の指導に生かす。			
	進路意識の高揚を図る。	キャリア教育の視点に立って、各学年に応じた進路体験学習の充実と、生徒個々に応じた細やかな進路指導を実践する。			
	国際文化コースの特色化を図る。	国際文化コースの特色化の課題について検討・改善を図り、年間を通した広報活動を行う。			
	家庭・地域との連携強化に努める。	定期的な学校開放、ホームページの有効活用、地域清掃活動の実施を通して地域への広報活動に積極的に取り組むとともに、家庭訪問等により保護者との連携を密にし、信頼関係の構築に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
教務部	学習指導の充実	自ら学ぶ意欲を高めるため、授業規律の徹底に取り組む。	B	B	教室の環境整備につとめ、授業に取り組む姿勢を環境面からも一層高めていく。
	出席率の向上	一日あたりの遅刻・欠席数を9名以下に維持する。	C		学年主任と連携し、「時間厳守」のための新たな取り組みを行う。
	学校活性化・特色化の推進	新学習指導要領への移行を視野に入れた教育課程の改善をめざす。	A		数学・理科の見直しを中心とした、新しい教育課程を作成する。
生徒指導部	地域からの信頼確保	地域や駅でのマナー向上のため、下校指導に力を入れる。	B	B	朝の登校指導場所を駅等に分散するなどの工夫をおこなう。
	予防教育の推進	ルールを守る大切さを理解させ、全職員でその場での指導をおこなう。	B		期間や重点目標をより明確にし、全職員による指導をおこないやすくする。
	社会に寄与できる生徒の育成	1年生全員入部(1学期)と、生徒会・部活動生による地域ボランティアを実施する。	A		生徒会・部活動を中心に地域ボランティアを継続する。
進路指導部	第一希望進路の達成	難関大学合格者100名以上、就職希望者の希望職種を100%達成する。	B	B	AO・推薦による進路先決定者が多い場合の課外・特編の内容について検討する。
	課外学習の定着	出席率95%以上にする。	A		課外に余裕を持って入室させる指導について考える。
	高い進路目標の保持	キャリア教育に基づいた進路指導の徹底により、高い進路目標を維持させる。	B		進路ガイダンスや総学の進路学習の内容の検討をする。
保健部	学習環境の整備・安全確保	校舎内の美化と点検を強化し、生徒が学習に集中できる環境を作る。	B	B	月末大掃除を計画し、全区域における美化意識の向上をはかる。
	地域の美化への貢献	通学路等学校周辺の清掃を計画し、自発的な取り組みを習慣づける。	B		全校行事・部活動・委員会活動での校外清掃を継続して計画し、実施する。
	心の教育の充実	生徒の意識調査等を通して、いじめを許さない学校作りに取り組む。	A		意識調査やカウンセリングを実施し、いじめの防止やクラスの円滑な運営に活用する。
国際教育部	各国際交流プログラムの円滑な運営	留学生受け入れ態勢と派遣プログラムの円滑化および充実化を図る。	A	A	短期研修における姉妹校訪問を容易にするための方策を考える。
	姉妹校との国際交流の推進	新しい姉妹校締結を実現するため情報収集、情報提供を図る。	A		新しい姉妹校との交流に必要な情報交換をさらに密に行う。
	国際文化コースの特色化	国際文化コースの特色化に向けての課題を検討し、改善を図る。	B		国際文化コースの現状と課題を再確認し、改善を図る。
図書・視聴覚部	読書の奨励	貸出指数(年間貸出総冊数÷生徒数)3.0を目指す。	B	B	図書館オリエンテーションの実施時期や内容を改善する。
	図書館利用の促進	委員会活動を活性化し、読書週間等の行事内容を充実させる。	A		図書委員と一般生徒の読書意識の乖離を埋めるための工夫や方策を考える。
	利用マナーの向上	定期的に昼休みや放課後に巡回してマナーの指導を行う。	B		定期的な巡回指導の継続と、延滞者に対して効果的な指導方法を考える。
研修部	キャリア教育に基づいた授業改善	公開授業を通して、わかる授業のための授業改善を行う。	A	A	キャリア教育の視点を継承し発展させ、学力向上につながる授業研修をめざす。
	校内研修の充実	生徒の自己評価や授業評価を生かした授業改善を行う。	A		授業評価表の内容を検討し、数値化されたデータを分析し、授業改善に反映させる。
	生徒による学校行事の推進	生徒を中心にした学校行事を推進し、他分掌と連携してマナー教育を行う。	A		学校行事で適切な態度が生徒に身に付くよう、他分掌と連携してマナー教育を行う。
企画広報部	積極的な広報活動の推進	H Pや広報紙やパンフレットを通じ、特色ある活動を地域に発信する。	A	A	特色ある活動を地域に発信するため、H P・広報紙・パンフレットの内容を充実させる。
	関係団体との活動促進	PTAや同窓会との関係を密に保ち、学校の協力体制を構築する。	B		PTAや同窓会と関係を密にし、協力体制を構築して、学校行事の進行を円滑にする。